



道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.18 夏号



みちづくし in 鹿児島 2008

「世代、時代をつなぐ道」テーマに
「みちづくし in 鹿児島2008」
九州各県から三百十人が参加

道守の輪

とびっきりまちづくり塾の「景観フォーラム」 鹿児島県奄美大島
北九州市道路サポーター総会開催 福岡県北九州市

平成20年度 九州風景街道推進会議

九州9ルートの代表が活動報告と意見交換

巻頭随想

尽きぬ古代ハイウェイのロマン
鴻臚館と大宰府政庁を結ぶ官道
石井幸孝

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りも、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るといふ新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、新しい道に一步踏み出そう。



「九十九島の春」長崎県北松浦郡鹿町町長申免【長申山公園駐車場】投稿者：入江 弘



CONTENTS

- 01 巻頭随想
尽きぬ古代ハイウェイのロマン
鴻臚館と大宰府政庁を結ぶ官道
石井幸孝
- 02 みちづくり in 鹿児島 2008
「世代、時代をつなぐ道」テーマに
「みちづくり in 鹿児島2008」
九州各県から三百十人が参加
- 03 道守の輪
とびっきりまちづくり塾の「景観フォーラム」
鹿児島県奄美大島
北九州市道路サポーター総会開催
福岡県北九州市
- 04 わたしの好きな道
四季の花々 癒しと活力の「みなもと」
野辺和美
- 05 私たちの道守活動
- 08 平成20年度 九州風景街道推進会議
九州9ルートの代表が活動報告と意見交換
- 11 討論
これからの道筋を探る九州風景街道
- 16 海外道事情【アメリカ・カナダ】
- 17 道守人物伝

表紙画：久富 正美
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭
随想

石井幸孝

YOSHITAKA ISHII



大宰府政庁と鴻臚館を結ぶ古代官道の「起点」となる鴻臚館東門跡に立つ石井さん

尽きぬ古代ハイウェイのロマン
鴻臚館と大宰府政庁を結ぶ官道



鴻臚館と官道のイメージ図



古代のハイウェイは、道幅も広く、直線コース。その道は、現在の道路と重なる部分が多い

「人間が歩いた跡が道になる」。魯迅の言葉だ。けもの道みたいなものが、多くの人が通るようになって、立派な道に成長してゆく、と考えられてきた節がある。千年も前の道は、幹線といえども、もっと幼稚なものだったに違いない。しかし、事実は大いに異なることが分かってきた。奈良時代、平安初期、つまり千三百年も前の国家国道「古代官道」は総延長六千三百キロ、四百もの駅（駅家うまや）があつて、駅ごとに連絡用の早馬が配置されていた。その数三千匹。道路幅は十二メートル、平野部は十キロに及ぶ直線道路、丘陵部は尾根道。驚くべきスケールの全国統一規格だった。当時の日本の人口はおそ

らく五百万人ぐらいだったろう。これだけのものを作り出したエネルギーとシステムの実態はどのようなものだったのだろうか。最近「古代官道」への関心が専門家や学者のみならず一般市民にも高まっている。ウォーキングブームや歴史ブームもあるだろう。しかし、大都市の市街地になったところでは、古代の道などともトレースできないだろうと思つてきた。ところが、そうではなかった。福岡市でいえば鴻臚館から水城西門を通り大宰府政庁に向かう直線道路と博多の中心から水城東門を通りやはり大宰府政庁に向かう直線道路の二つの官道は、わずかに八度ほど開いた軸線まで現在の「高宮通り」「筑紫通り」と一致する。

古代ローマ帝国のあの「すべての道はローマに通ずる」の古代ハイウェイ、秦の始皇帝がつくった、道幅五〇メートル、七五〇キロに及ぶ「直道」と同じ発想がわが国にもあったのだ。古代のダイナミズムの象徴、古代ハイウェイのロマンは尽きない。

プロフィール

1932年広島県生まれ、東京大学卒業、国鉄に入社、国鉄改革に携わり、初代JR九州社長、会長。「市民参加の古代官道調査活用事業」代表・実行委員長。

「世代、時代をつなぐ道」テーマに 「みちづくし in 鹿児島2008」 九州各県から三百十人が参加



九州の道守たちが集まる「みちづくし in 鹿児島」が平成二十年十一月二十八、二十九日鹿児島市で開かれた。各県別の道守活動報告に続いて、小学校と中学校生徒の活動報告があり、感動を呼んだ。

実行委員長の田島直美さんと樗木武道守九州会議代表世話人の開会あいさつの後、NHK大河ドラマ「篤姫」の時代考証などを担当した原口泉鹿児島大学教授の特別講演「篤姫の生きた時代の街道」。

第一部活動報告では、各県代表がそれぞれの特色ある活動を報告した。鹿児島からは薩摩街道保存活動を市民参加で行い、道標や案内板の設置、街道散歩などのイベントで人と人の交流、郷土の歴史や文化の継承に役立てていることが報告された。

また、宮崎大学の学生グループが宮崎市内の市街地の真ん中に遊び場を作り子供たちとの遊びを通じて「絆」をつくり、人間味ある道の可能性を広げる試みを紹介した。

第二部では鹿児島市立大滝小学校の



生徒代表が、景観を意識した道路清掃活動を報告。同小学校は篤姫の生誕地や西郷隆盛の南洲神社などの史跡が近くにあり観光客も多い。生徒たちは訪れる人が気持ちよく観光できるように清掃を行っているが、町の人や通りがかった人々から励ましの声をかけられ「やりがいを感じる」と明るい報告を行い会場の拍手を浴びた。

このほか、県立鹿屋高校、さつま町久富木公民館からの活動報告があった。

道守九州会議全体会議も開かれ、平成十九年度の事業報告と二十年度の事業計画案を了承した。



鹿児島県
奄美大島

とびつきり まちづくり塾の 「景観フォーラム」

風景街道づくりを
目指し意見交換

奄美大島の「道づくり」や「地域づくり」の在り方を考え、日本風景街道登録へつなげようと、とびつきりまちづくり塾（重信千代乃代表）によるフォーラム「共に創る美しい道」共生、



協働のための第一歩」が平成二十一年二月二十五日、鹿児島県大島支庁（奄美市）で開かれ、道路美化活動を行って

いる個人、団体、行政関係者ら約80人が参加した。

はじめに、道守かごしま会議代表世話人田島直美氏が、「道守」の活動を紹介し、道路沿いの清掃や美化活動を行うことで、道路空間の多様な利用方法が出てくることや、個人で考えるより、民間、行政が集まり、みんなで共に考えれば様々なことができることを述べた。

地域資源の発見と 保全、活用と 景観づくり

次に、かごしま風景街道代表福島大輔氏が、日本風景街道の概要説明やかごしま風景街道の活動報告等を行い、多種多様な主体がまとまり、地域の資源を発見、保全、活用すること



で、いい景観やいい地域ができると強調した。

最後に、鹿児島県道路維持課黒瀬公美子土木

技師から、県が実施している「ふるさととの道サポート推進事業」等の道路美化活動者への支援内容について説明があった。

講演の後の意見交換会では、重信氏から、各活動団体のネットワークづくりが必要との意見があった。

福岡県 北九州市 道路サポーター 総会開催

美しい北九州市づくりに 向けて道守会議に 新たに参加

北九州市道路サポーターは、北九州市の管理する道路の清掃・美化活動を行うボランティア団体の集まりです。

道路の清掃や、道路に異常を見つけた際の通報、花壇の手入れ等を行っています。

平成十七年10月に12団体、513名でスタートし、現在では、自治会関係や企業、サークル、学校等多岐にわたり、107団体、約6,400名の方々に



まで広がっています。

活動人数、時間、場所等もさまざまですが、「無理をせず、永く続けていこう」という気持ちで、日々活動しています。

特に、年一回開催している「道路サポーター総会」では、登録団体が一同に会し、団体相互の交流や情報交換を行い、活動の参考や励みとなっています。

この度、道守九州会議に参加させていただきました。これから、道守委員の皆さんの活動を参考にしながら、美しいまちづくりをさらに進めて行きたいと思えます。

09年「みちづくし in みやざき」

10月23、24日、宮崎市青島地区で



●初の実行委員会開く

今秋、九州の道守メンバーが集まる「みちづくし」の実行委員会が五月二十日、宮崎河川国道事務所で開催された。実行委員長に道守みやざき会議代表世話人の日高晃氏を選出、実施方法など具体的な開催内容を話し合った。

「みちづくし」は、毎年、九州各県を持ち回りで開催しており、今年も宮崎での開催が決定していた。実行委員会では開催日時を十月二十三、二十四日の両日、宮崎・青島地区と決定、大会のテーマ、プログラムなど具体的な内容は、今後、実行委員会で詰めていくことになった。

宮崎では道守活動が活発に展開され日南海岸、日豊海岸では風景街道づくりが進展しており、活発な論議が期待される。



わたしの好きな道

四季の花々 癒しと活力の「みなもと」

宮崎・酒谷 国道222号 日南ダム沿い

私の住む「酒谷」は、宮崎県南部、日南市と都城市を結ぶ国道222号線沿いに位置する中山間地域である。酒谷川の清き流れと、鉄肥杉が連なる山々、日本棚田百選の坂元棚田や小布瀬の滝など、地域資源に恵まれた自然豊かなところだ。私は、生まれて今日まで、この「酒谷」を離れたことがない。生粋の酒谷人ともいいたところだろうか。

小学校の頃、家から学校まで、かなりの距離があったので、バス通学を余儀なくされた。歩いて登下校する友達を横目に、何だか得をしているような気さえしていた。しかし、中学、高校は一変して自転車通学。毎日遠い道程を、ただひたすら自転車のペダルを踏みながらも、田畑や木々、花の香りを爽やかに感じ、しっかりと五感で四季を楽しんでいた。

十年程前から、地域の拠点である「道の駅酒谷」で地域づくりに関わるようになった。九州でも珍しい、地域で運営する私たちの道の駅。活動を行う中で、改めて「道と人と生活の関わり」の重要性を学んだ。地域の方々や子供たち、時には行政の方々、沿道にあじさい・桜・もみじ・椿など植栽している。そのせいか沿道の様子がとても気になるようになった。

中でも、国道222号線から眺める日南ダム湖沿いの斜面は、私の大好きな場所。そこに映える春の蓮華と吉野桜、そして秋には幾何学模様の彼岸花。毎日のちょっとした変化を、四季を通して楽しんでいる。私に癒しと活力を与えてくれるこの場所は、「酒谷」の誇れる花の名所とも言えるだろう。

幼い頃からお世話になっているこの道は、ずいぶん景観も変わってしまったけれど、今も昔も地域みんなの大切なふるさとの道。これからも私たちを育て、そっと見守ってくれることであろう。



プロフィール

野辺 和美

「道の駅酒谷」駅長。道守みやざき会議、日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会各会員



私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介していきます。

長崎 地域からの報告
道守長崎会議

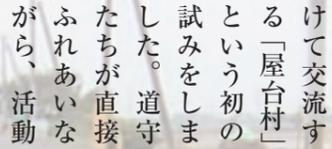
ネットワーク 道への関心 調査・研究

三つの柱

柱① 会員間の情報交流

道守長崎会議では、三つの基本方針のもと道守活動を実施しています。

一つ目は、会員間のネットワークを形成し情報交流を行うことです。道守長崎会議では、年に一度総会を開催しており、平成20年度は各地区の道守ごとにブースを設けて交流する「屋台村」という初の試みを行いました。道守たちが直接ふれあいながら、活動



二つ目は、道路利用者・一般市民の道への関心や愛護の心を育てることです。道守九州会議の発案で実施した「九州一周駅伝ルート一斉清掃」では、長崎県内で36団体、約500名が参加しました。選手に気持ちよく走ってもらうために、観客に気持ちよく応援してもらいたいという想いを込めて、多くの人が



三つ目は、「道」に関する調査・研究・情報発信をすることです。平成20年度は、県内の5つの地区で「通り名」プロジェクトを実施しました。「通り名」とは、土地に慣れない方を、通りの名前と距離を表す番号を記載した標識板で、目的地へ案内しようという試みです。地域の方々とワークショップを開き、歴史や謂われにふさわしい通りの名前をつけ、標識板を設置し、通り名を記載したマップを作成しました。

柱③ 通り名、マップ作り

また、これらの道守活動を広く紹介するために、月に一度「道守長崎通信」を発行しています。道守長崎会議では、今後も道守間の交流を深めながら、地域住民・行政と協働で様々な活動を実施していきたいと考えています。同時に、道守長崎会議を積極的にアピールし、道守の普及促進に邁進して参ります。



(阿野史子)

長崎

潮見小学校区町内連絡会

幸せ分かち合う

ふれ合いの道守活動



長崎県北部の中心にある佐世保市は、九十九島やハウステンボス、佐世保パーガーなどがある名で、全国から沢山の旅行者が訪れる観光の街です。その佐世保の玄関口でもある

「佐世保駅」国道35号線に、毎年6月と11月に、自分達で種から育てた花苗約1200苗を植えているのが潮見小学校です。そんな潮見小学校児童の地域環境美化への熱い思いを、何とか地域みんなで支えることが出来ないか、との思いから私たち「潮見小学校区町内連絡会」の活動は始まりました。

私たちは、児童が花苗を植える際の土作り、植え付け後の水やり、歩道の清掃活動などを行っています。特に、夏場の水やりでは、水分が不足しないよう、当番表を作成して毎日作業を行っています。

活動を始め、はや4年が経ちます。最近、道行く方々から「綺麗ですね。」と声をかけて頂くことが多くなり、このボランティア活動のやり甲斐を感じているところです。「人々が幸せを分かち合うふれあいの町」をモットーに、これからも潮見小学校、行政の方々と共に、この活動を続けて行きたいと思



(藤田孝徳)

福岡



ひまわりの会

思いやりを表す対話
「あなたの道、いつもきれいに」



私たちは、北九州市花「ひまわり」のように、明るく楽しい様子をイメージして「無理をせず、気長に、誰にでも出来ることから始める」をモットーに、道の清掃から、あ

いさつや声かけをしています。若戸大橋を渡り若松の玄関口の地域には、芥川賞作家で有名な文豪「火野葦平」の旧家「河伯洞」があり、来る人を気持ちよく迎えられるようにとの願いをこめて、朝は通勤、通学でこの道を通る人に、季節のあいさつや立ち話をし、若いお母さんには、子育ての苦労や心配事を聞き、なじみの関係づくりをしています。「あなたが通る道をいつもきれいにしますよ」と思いやりを表す行動、これが大変重要なことのように感じています。

ひまわりの活動が話題になり月2回の校区防犯パトロール巡回に、ゴミ袋と火バサミを持ってごみ拾いをしながら回り、「道」を通じて地域のマナーアップの向上へと変貌しています。
(井出口郁子)



大分



別大・マイツリー活動

目輝かせ、笑顔で
「早く大きくなーれ」



「道守大分の会」の活動の一環として、会員の皆さんと別大国道(田ノ浦公園)うみたまごの間)に「マイツリー」として、ホルトの木、シマトリネコを植樹し、早いもので4年が経過した。

いつも別大国道沿い「一斉清掃活動」しながら会員一人ひとりが植えた「マイツリー」の周辺に近づくとみんなの目が輝き、笑顔で「マイツリー」に手を差し伸べ木の面をさすりながら、「早く大きく、大きくなあれ」と声を弾ませる。「マイツリー」のそばで清掃活動ができ、会員との楽しいひと時です。最近では、自家用車で、別大国道を走るのが楽しみになった。何気なく走っていた別大国道でしたが、「マイツリー」の近くになると速度を落とし、「マイツリー」を眺めることが、私にとって「宝物」のひとつとなった。春になったら、子どもや孫に「マイツリー」の前で「道守」について語りかけていきたい。
(大津悦子)



佐賀



基山会

地域に溶け込み
春・秋のボランティア活動



基山会は、基山町内に在住する国土交通省(当時建設省)職員とそのOBで構成され、会員相互の親睦を図り、地域への貢献を目的に平成3年に発足しました。

年に1回の親睦会を中心に活動してきましたが、基山町内を通過している国道3号線が平成19年春に4車線化となりそれを契機に、「私たちが住んでいる基山町を通る国道3号線を利用されるみなさんが気持ちよく利用できれば」と「私たちが住んでいる基山町に少しでも貢献できれば」の願いを込め、ボランティア活動を立ち上げ実施しております。

全員の活動は、春と秋の年2回を当面の目標で実施しています。

それ以外は、日常の生活の中で施設等に異常や気付いた点がある場合には、鳥栖維持出張所に連絡するなどの活動も行っています。

特に、春の活動時には実施後に参加者全員で公園で弁当を開いて親交を深めます。

まだまだ年数も浅い団体ですが今後は、ボランティア活動を通じて基山町の一員として、地域の為になればとの思いで末永く活動していきたいと思っています。
(大串好春)



宮崎



チームM

企業市民32社で
植栽・キャンドル八千個



私達のボランティアグループの「チームM」の結成のきっかけは、僕達の企業活動を通じて何か地元へ貢献出来る事はないかなと模索していたところ、道守みやざき会議

代表世話人の日高晃氏から話があり、「秋の植栽ボランティア2005」への参加が初めてでした。参加して、企業市民として市民の人達と一体になり、活動する必要性を感じました。

次に行ったのが、平成18年の「天満橋開通記念」の竹のキャンドル8000個作りです。竹の採取から製造、設置・撤去まで全て「チームM」で行い、夜間にキャンドルを灯した時の幽玄な感じの開通式を今でも思い出します。その事を皮切りに、独自の活動を計画し、昨年は「橋の日」合わせて、橋橋を花で飾り、今年も宮崎のフラワーフェスタの開催日に合わせて橋橋を花で飾りました。

現在「チームM」の会員数は各分野の会社が32社で活動をしていきます。
(前原正人)



熊本



熊本市水道町

市民花壇づくり
交通最大の交差点に



国道3号と県道28号の交差点である、熊本市水道町。県内で最も交通量が多く、大きな交差点となっている。ここに、平成20年7月に四つの大きな市民花壇が誕生した。国道と県

道の交差点ということもあり、苗植えなどの作業をするときは、大変神経を使った。さらに、日照りが続く夏場の水遣りが大きな課題となったが、各花壇の近くの企業に協力をしてもらい、夏場の水遣りを担当してもらった。市民花壇となつて、大勢の人々の協力と花の種類や多年草を多く植えるなど市民手づくりの花壇ができあがり、道行く人々の目を楽しませている。
(酒井宏壽)



鹿児島



草牟田通り会

15年間の道清掃活動
共有財産を美しく、安らぎを



草牟田通り会の商店街は、国道3号線沿いに寄り添うように60店舗の近隣型商店街です。鹿児島アリーナから甲突川の鶴尾橋を渡り、国道3号線を横切り出会い坂を通り、坂道の城山団地を登ると草牟田小学校があります。

草牟田地域は、古い街並みが残り、曲がりくねった迷路のような道路が残る街です。通り会では、国土交通省からフラワーポットを14基設置、毎年3回花の苗を配布して貰い、道行く人々に「心の安らぎと、美しい街並み」を体感してもらおうと、会員が協力し維持管理を行っております。

また、毎月第2・第4水曜日の早朝より会員と地域住民の協力で、道路の清掃活動を15年前から行っております。道は、私共にとって車や単車、自転車、歩行者の行き交う生活の場であり、道が無ければ日々の生活が出来ない、必要不可欠な社会の共通財産でもあります。その道で「出会い」、別れ、生活を営み、日々生きております。この道が人々にとって、希望に繋がり、夢とロマンに満ちた道であって欲しいと願いながら、今日も草牟田通り会の商店街は、来店者を笑顔で迎えて、笑顔で送る、道と共生し発展する商店街活動を目指して頑張っております。

どうぞ、新しい出会いを求めて草牟田商店街に「道を歩いて」お越し下さい、お待ちしております。
(片平孝市)

九州9ルートの代表が活動報告と意見交換

行政とパートナーシップの

「協働」着実に前進

「知名度のアップ」
「さらなる連携」など課題

平成二十年年度の九州風景街道推進会議が一月二十八日、福岡市のホテルでひらかれた。十八人の委員と登録された九ルートの代表が出席した。明石博義会長のあいさつの後、行政の取り組み、各ルートの活動実績と今後の計画について報告が行われた。この中で平成二十年四月から九州風景街道支援室を設置、行政としての体制をつくり、風景街道関係者や住民からの問い合わせに対応するほか、ホームページによって風景街道の知名度アップに努めていることが報告された。

推進会議委員から、「風景街道をいかに一般の人に知ってもらうか」「点から線へ、さらに面へと広げる」など九州風景街道での活動をさらに活発にするための提言や意見が出された。

九ルートの代表が、平成二十年年度の活動報告をスライドなどを使って紹介。風景街道づくりが着実に進められていることを強く印象付けた。

岡本博九州地方整備局長からのメッセージ

「道路部長として、九州勤務 長く育てようということになり、このころ、シーニックバイウェイ ました。委員会を作り議論をはじめ、制度づくりを考えさせても取り入れられないか、シー もりました。そうした流れかニックバイウェイ・ジャパン、 ら言うと、九州でこうした熱心日本風景街道というものができ な取り組み、中身も充実してきてないかと勉強会を始めたわけで ているのを見ると本場に嬉しくす。模索の時代がありまして、 なります。これからも、一緒に本省に帰ったところで、日本で 進んでゆきましょう」

九州推進会議委員の発言と提言

● タイアップした情報発信を

青山佳世 委員（アナウンサー）

「九州の風景街道活動が行政と地域が互いにサポートしながら進んでいることに、大変頼もしくおもいます。取り組みをより広く進めていくためには共通のロゴマークや統一的な定義があればマップやサインに使える。また、統一したものでやりたいのか、あるいは個性的なものでやりたいのか考えていただきたい。情報発信の面では、JAFナビ（日本自動車連盟）ではドライブコース1300、観光スポット1万4千がはいり1カ月のアクセスが三百万件といわれています。これらとタイアップを考えたら、と思います」

● 九州の凄さを情報発信して

橋本洸 委員（福岡商工会議所）

「九州活性化の中で大切なのは観光と第1次産業。特に観光についてしっかり発信してゆこう。その中で九州風景街道で九州の凄さを首都圏、関西圏さらにはアジアへ発信していただきたい」



九州風景街道ネットワークを発足

現在、九州では九ルート（地域）これらの活動を支援する有識者等での皆様が日本風景街道への名乗りを「九州風景街道ネットワーク」を上げ、活動を開始されています。

平成二十一年一月二十八日にこれら九ルート代表者会議が開催された機会に、今後「九州風景街道推進会議」の指導支援も得つつ、九州の各風景街道の育成支援を行っていくための民組織として、各ルート関係者及び

設立趣意書

「日本風景街道」は、郷土愛を育み、地域の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を生かした原風景を創出する運動を促し、以て、地域活性化、観光振興に寄与することを目的に国土交通省の施策として、推進されており、九州においてもすでに九ルートが登録され運動が開始されている。

各推進組織においては市民団体、NPO、企業、自治体等の多様な主体がパートナーシップを形成し各地で個性をもった運動を展開されつつあるが、未だ試行錯誤を経つつ取り組みを推進されている現状である。またこれら登録地域外においても風景街道に関心を寄せる地域は多く存在している。

このような歩みを始めたばかりの各風景街道の円滑な推進と、九州の風景街道の育成発展に向けては、各ルートの代表者、有識者、行政等が連携を図りつつ協働し地域活動の育成を行っていく民間セクターの存在が重要であり、ここに九州風景街道ネットワークを設立するものである。

平成二十一年一月二十八日

● 連携してイメージの

売り込みを

石田研一 委員（NHK福岡局長）

「九州の風景街道は長いのが短いルートが混在している。やはり、連携が重要ではないか。番組をつくる時、例えば四国だと八十八か所めぐりぐるっと回るイメージがあるが、九州の場合それがない。連携してどういうイメージで売り込むか、自然文化、歴史を絡めてアピールしたらいいのではないか」



● 青年会議所HPとリンクを

内田晴也 委員（青年会議所）

「青年会議所は九州に七十七ありますが、それぞれの地域性をアピールすると同時に九州全体としての活動を重視している。それぞれの会議所がホームページをもっていますから、風景街道のそれとリンク出来れば相乗効果が生まれるのではないか」



●点から線へ、さらに面へ

東島治男 委員（カメラマン）

「九州の九ルートはすべて回らせてもらいました。昨年1年間で三万kmぐらい走りました。回ってみてたとえば、やまなみハイウェイのように自然がしっかりと整備されているところと寂しいと思う所とが混在しています。また横道や寄り道にも良い所があつてルートに入れば好いと思うことが多々ありました。点から線へ、さらに面へと広がってほしいですね」

●カーナビに風景街道情報を

三浦隆明 委員（ゼンリン）

「提案させていただきたいと思えます。自動車メーカーにカーナビの部品としての地図を供給しているわけですが走っている時、ここが風景街道です、といった点灯したり、紅葉がきれいですよ、とか満開になりましたとかの情報携帯電話に飛ばしていますからそういう仕組みも取り入れることが可能です。ぜひ、皆様と連携してまいります」

●ルートごとの

きめ細かな支援を

玉川孝道 委員（西日本新聞社）

「九州の九ルートを見るとやはり熟度の差がある。そのルート、ルートの悩みや苦しみがあるわけで、一律の支

援計画ではなく、この支援がどのルートに必要なか、どうすれば評価の高いルートになるか、具体的に考えてゆかなければならないと思います。そのためには行政と地域を結ぶ中間組織がどうしても必要になるのではないかと



■支援室からの報告

- ①ゼンリン九州支社は街道マップを作成中。「日南海岸きらめきライン」「唐津街道むなかた」を作成。
- ②九州労働金庫の情報誌「夢ろうきん」に「九州風景街道を行く」連載企画中。
- ③支援室の体制は3人体制。九州地方整備局道路計画第二課に置く。
- ④ロゴマークは商標登録などの作業終了後、運用開始。
- ⑤好事例集は全国から集め各ルートに配信。
- ⑥評価手法検討中だが、二十一年度には試行の予定。

討 論

これからの道筋を探る

九州風景街道

九州風景街道に登録された9ルートはそれぞれのパートナーシップを中心に、着実な歩みを進めている。

しかし、活動を進めていくうえで、さまざまな課題が浮かび上がってきている。九州風景街道推進会議は1月から、アドバイザーを各ルートに派遣、問題点の洗い出し、今後の課題、解決策の話し合いを行った。

各ルートから出された課題は、「風景街道の知名度の低さ」から「各ルートを始め、多様な主体との連携の在り方」

など多方面にわたった。直ちに、解決策が取られるのは難しい問題が多かったが、実践の中で一歩一歩進みながら解決策を模索してゆくことが確認され、有意義な議論となった。各ルートでの討論を紹介する。

現地討論にアドバイザーとして参加したのは、樗木武九州大学名誉教授、石田東生筑波大学教授、玉川孝道西日本新聞社顧問、森将彦道守九州会議事務局長。行政から国土交通省九州地方整備局、自治体など。

かごしま風景街道

桜島と指宿が今回の現地調査の対象となった。ルート景観の問題点を参加メンバーがそれぞれの視点からチェック。グループ討議を行った。参加者は現地関係者のほか、九州地方整備局、鹿児島国道事務所、九州風景街道推進会議からは玉川孝道委員がアドバイザーとして参加した。

■桜島ルート

桜島フェリー発着場をバスでスタート、桜島をぐるっと一周、景観上の問題点を洗い出した。桜島の玄関となる

フェリー発着場周辺は、コンビニ店をはじめ、屋根などが茶色に統一され、抑えた色調で桜島そのものの雄大な景観を阻害しない配慮がなされていたが、ルート全体にまでは及んでいない。溶岩原には松が自生し、かつての荒々しい風景は見られなくなった。環境省などの規制で「自然に手を加えない」方針によるものだが、観光上は物足りなさが残るだろう。

また、途中の道路わきに廃屋が残り、景観を著しく悪化させている現実、「早めの撤去を求める」声が強かった。

東桜島地域は、道路整備が不十分で、案内・説明板もほとんどなく、今後の大きな課題との指摘があった。

■アドバイザー

「土石流などの危険を防ぐため、コンクリートの大型堤防が作られているが、コンクリートがむき出しにならないよう、植栽などで景観上の措置が必要ではないか。桜島は活発に活動している活火山であり、地球のエネルギー活動と向き合っている住民の暮らしが生でうかがわれる景観がほしいし、桜島大根など火山地特有の産物も貴重な資源になる」

■指宿ルート

道の駅「いぶすき」から、海岸沿いの景観をチェック、今和泉公民館で意見交換を行った。

海岸沿いの雑木が生い茂り、せっかくの錦江湾の景観が楽しめる状況が何と改善したいとの意見が多く出された。しかし、海岸への斜面が急勾配で、住民による草刈り作業は危険で出来ない。行政の対応が待たれる。景観維持のため看板規制が行われているが、その告知看板が逆に景観阻害してはいないかの意見や、港湾工事案内の大型看板が老朽化し、ペンキもはげ、見苦しい状況で放置されていることへの強い指摘もあった。



九州横断の道 阿蘇くまもと路

阿蘇の野焼き作業の安全確保
ボランティアに大学生を
実施日を公開しない配慮も

■活動報告

「阿蘇火口付近の民間ホテルの廃墟が景観阻害物となっていたが行政で撤去することになり、大きな前進を見た」（道守くまもと会議）
「阿蘇の野焼きは八月の防火帯づくりから始まる。防火帯は六四〇キロ（熊本―静岡間）にも及ぶ。ボランティア八百人、地元民六千人。続いて野焼き



にはボランティア千人、地元民八千人が参加する」（阿蘇グリーンストック）
「菊陽町大津街道沿いのハゼ並木二キロ、約四百本。保存活動を始めて七年になる。歴史街道がだんだんすたれていくのがさみしくて始まった事業。年四回の草刈り。木の名前を付ける運動など里親制度を展開している」（街道並木樹を守り育てるボランティアの会）

■意見交換（野焼き活動の安全確保について）

「大分で、野焼きの死亡事故が起きた。熊本では十五年間事故は起きていないが、観光客が止めていた車が焼けた事故があった」「野焼きを行う後継者が不足しているのでボランティアの応援を受けているが、安全研修を必ず受けてもらっている。リーダーは特別の研修を受けている」「野焼きのノウハウは年配者の頭の中にしかない。そのためGISで航空写真に危険箇所を表示させるように作業を進めている」など阿蘇グリーンストックから報告があり、安全論議が交わされた。

また、野焼き作業者のほか、見物人、観光客の安全確保も話題になったが「観光客には実施日は公開していな

い。行政が看板設置や道路規制を行っている」ほか、消防車の待機など万々に備えている。
そのほか、熊本城下町の活性化や組織内の連携、自主財源の確保などについて意見交換が行われた。

ながさきサンセット・オーシャンロード

風景街道プロジェクトの

立ち上げを道守会議が提案
大学、行政が、さまざまな活動、アイデア、意見発表

■平成二十一年度の活動方針を決定

道守長崎会議から「組織作り」「人づくり」「舞台づくり」「しかけづくり」の四本柱の活動方針が提案され、決定。
①組織づくり―地域連絡会議の開催、地域再発見ツアー、交流会の実施
②人づくり―観光ボランティアガイド養成講座の開催
③舞台づくり―花植え、通り名での道案内、景観診断調査、案内板設置場所の検討
④しかけづくり―見どころマップの配布、道の駅連携スタンプラリー、モニターツアーの開催など



■アドバイザー

「野焼きについては大分、熊本は大学を持っており学生の力を借りるのが有効な手段。彼らに野焼きのノウハウを教えて、さらに仕組みづくりを」「日豊海岸では伊勢海老街道の売り上げから年間三百万円をねん出している」

■道守長崎会議からの提案

「現在の活動のままでは風景街道の活動は点から線さらに面へ広がらない」として以下の提案が道守長崎会議阿野事務局長から行われた
①街づくりに関心の強い地域を中心に風景街道プロジェクトを立ち上げる
②同チームにより実際に町歩き景観診断を行う
③景観診断と合わせて地域の歴史の掘り起こしや資源の再確認をする
④まちづくり改善計画を作成する
⑤アクションプランの作成



■討論および意見発表

「組織作りでは道守との連携、舞台づくりでは大学と連携した景観診断、しかけづくりでは自立に向けたマップの更新などを考えたかどうか」（河川国道事務所）「負の景観である電線、看板など順次取り組んでいったらどうか」（長崎国際大学）「観光ボランティアガイドの育成活動には大学を利用す

日豊海岸シーニック・バイウェイ

もつと、風景街道のPRを
活動の方向性をハッキリと
行政連携の強化が必要

テーマ1・日本風景街道のPR

「風景街道の認知度向上のために、住民への周知が必要であり、国レベルでのPRに努力してほしい（佐伯市、かまえブルーリズム）」
「風景街道と道守活動を連動させれば効果的なPRが可能になるのではないか」（道守会議）

テーマ2・活動の方向性

「風景街道の取り組みには制限がないため、活動がつまみ食いになって、方向性が明確になっていない」「参加メンバーの意識向上のためにも、全体で

ることが可能」

■アドバイザー

「民間は地域の理解と協力を得る力があり、行政は補助金申請など行政支援力を発揮できる。両者をつなぐ中間的組織が必要だ。コーディネーター組織を早急に立ち上げたい」

テーマ3・官と民の連携

「地域と連携してきた行政のリーダーが人事異動で突然いなくなる」「行政内での引き継ぎをしっかりとってほしい（道守メンバー）」「行政の体制が弱い。行政連絡会の連携を考えるべきだ」（佐伯市など）

■アドバイザー

「ルートの活動などをコーディネーターする人物が必要ではないか。地元大学がその役割を担っているとかが多いが、本ルートでは、大学が遠い。行政連絡会と一緒にその必要性、人材等を検討されたらどうか」



ファンを作り、来てもらい、泊まってもらおう。そしてビジネスの

可能性を広げる

■仲間浩一九州工大教授の問題提起
仲間教授は、魅力ある風景の創出に求められるものとして

- ①本物の生活遺産の重要性を認識すべきだ。客寄せに作ったものは続かない。
②観光客のための景観を作る必要はない。観光客と地元住民のどちらにも大事な景観、風景を探すべきだ。
③地元ガイドを育成する場合、子供にシナリオを作らせ、ガイドをしてもらうのが良い。総合学習や地域の祭りの一環として行ったらどうか。



④公共事業に頼らず、一人ひとりが時間の提供を通じた税金に頼らない仕組みが必要だ。

意見交換

「本物が必要だが、その判断が難しい。生活遺産と言うのが、当時の食べ物を作れば客が来るかと言えば疑問だ」「風景街道と言っても知名度は低い。継続的な情報発信が重要だということは分かっているのだが」

アドバイザー

「ファンを作ることが重要だ。ファンは何度も来てくれるので可能性が広がる。そして、滞留時間を長くしてもらう。来てもらったら泊まってもらおう。民泊までゆくとビジネスの可能性が出てくる」



「ビジョンと手法が見えない」
ハード整備予算の確保を

「このままでは活動が続かない」

日南海岸きらめきラインの討論と意見交換は2月7、8日の両日にわたって開かれた。アドバイザーとして石田東生筑波大学教授が参加、日南海岸地域シーニックバイウエイ推進協議会、宮崎大学、関係自治体、九州地方整備局などが出席した。主なテーマと議論は以下の通り。

活動の進化

当初、行政は活動のサポートのスタンスだったが、行政の役割に気付いた。油津では歴史を生かしたまちづくりをしている。古い写真を見て地域の人が語り始めた。商工観光がチョロ船に取り組んだのも風景街道の取り組みがきっかけである。(日南市)

新しい手法として

これまでは行政中心の地域づくりであったが、限界を迎えつつあった。風景街道パートナーシップという新しい手法が生まれて新しい展開となった。現状では地域、人に熱意に差があり、そ



れが活性化の差になっている。(宮崎県)

ビジョンと手段

文化の再構築に対して国の持っているビジョンと手段が見えにくい。行政と地元の相互のチェック、契約が現状では欠落している。(宮崎大学)

ハード整備

風景街道に関連したハード整備を求める声があるが、まだそこまで至っていない。今は、助成事業の紹介などを行っている。(九州地方整備局)

地元の不安

プロセスの先が見えないと地元は不

安になる。電話連絡や移動の予算も必要。活動を継続させるためのプロセスを考えるべきである。(推進協議会)

アドバイザー

「予算については国の方でもカウン

ちよっとよりみち 唐津街道むなかた

大学との協力を
総合的視点から、
ルートの確立を

現地懇談会(一月開催)は、宗像市内の公民館で開かれた。同市原町、赤間宿の現地の風景街道づくりに参加している地域住民や宗像市、北九州国道事務所などが活発な意見交換を行っ



ターパートのいない補助金を作る。または新交付金を風景街道の活動に与えることも考えられる。北海道では活動を支援する支援センターという組織がある」

た。現地側から出された課題とそれに対するアドバイザーの発言は以下のとおり。

課題1 商店街、地域住民の意識

一が十分ではない。運動が長続きしない。どのように盛り上げるか。

①まず、住民が自分の町の歴史や素晴らしい地域資源を学び、自信と誇りを持ち、景観保全、修景に取り組む機



課題2 唐津街道に関連して、原町と赤間宿の町並み整備が課題だが二つをつなぐ展開が難しい。

①「ちよっとよりみち唐津街道むなかた」の課題は、基幹となるルート性が明確でないことだ。地域資源をめぐる回廊性の欠如といってもよい。風景街道の構成要素の中でもこの「ルート」づくりは根幹をなすものだ。孤立したスポットがあるだけでは風景街道は成り立たない。

てほしい。唐津市が風景街道に関連して、九州大学と協力、域内の独自のルートを作った先導事例があるので参考にしてほしい。

課題3 古民家や古い町屋が急速に壊れ始めている。その保存や住民合意はどのように可能だろうか。

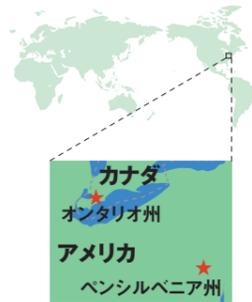
①確かに、赤間宿は宿場町として、危機的状態にある。保存活用となると、すぐ、市に買い上げてもらい美術館などに活用するアイデアが交わされる

が、今の財政難に呻吟している自治体ではない。自ら活用を考える、アイデアを出す、合意を形成し、行動する。

その気構えがまず、必要だろう。

②古民家、町屋の修復には、専門的な知識が必要だし、景観修復も同じ。そうした専門家の参加を求めている。景観診断、基準、問題提起が行われるような

支援がどのように可能か。九州推進会議で検討せねばとおもっている。



住民みんなで作るすがすがしい街路

ありふれた風景から、「ひと」と「みち」の距離感を考えてみたい。
まず一枚目の写真はカナダのオンタリオ州ウインザーからである。この町に限らない、ごくありふれた住宅街である。住宅の前面がそのまま歩道へとながり、街路樹の向こうにはすぐ車道が見え



カナダ、オンタリオ州ウインザーにある住宅街

ている。歩道に沿って歩くと連続した芝生がとてもきれいで、すがすがしいほどの開放感だ。街路樹もよく管理されている。気持ちよく歩道を歩いていると、道路の疑問が頭をもたげてきた。この歩道は誰が所有して誰が管理しているのだろうか、と。

日本の道路の常識なら、歩道までが道路用地ということになるのだろう。車道・街路樹・歩道をまとめて行政が所有・管理し、それより住宅側のエリアは各戸の住民が所有・管理する。当たり前のようだが、この写真を実現しようとするとなかなか難しい。芝生の刈り方がみな揃っているのである。街路樹が植えられているところも、住宅の前面も、そしてそれに続く隣の住宅も……。これだけ整った景觀が日々保たれているのは、多くの関係者がみな同じ気持ちでがんばっているからではないだろうか。

交差点のレンガに刻み込む思い出の人々

二つ目の写真は、歩道に敷き詰められたレンガのタイトルである。ゲティスバーグ



アメリカ、ペンシルベニア州ゲティスバーグの駅前交差点にあるレンガ敷の歩道

グと言え、アメリカの南北戦争の激戦地と世界史を思い出す方も多いのではないだろうか。この歩道はそのゲティスバーグの駅前交差点にある。きれいに並べられたレンガに近寄って見ると、一枚一枚に人の名前が刻み込まれている。名前がそのまま刻まれているものもあれば、「・・・を偲んで」とか「・・・に敬意を表して」などの言葉が添えられているものもある。有名な手形やサインを歩道に並べた例はよく聞くが、一般人の名前がこれだけ並べられているのには驚いた。南北戦争で亡くなった方の名前を刻み込んだのかも知れないとも思ったが、いずれにしてもこの地の人々の気持ちがかもつた歩道であることには間違いない。

公園ベンチに愛のメッセージ

三つ目の例は、レンガの例に近いが道ではなく公園のベンチである。このベン



カナダ、オンタリオ州ウインザーにあるオプティミスト公園のベンチ

チの背には、「マリア&リー・ドルーヤード♥2000年8月26日♥幸せを願って―父と母より」とある。結婚のお祝いに両親が贈ったものだろう。このほかのベンチにも、全てこのようなメッセージが刻み込まれている。「65歳のお誕生日おめでとう」とか、「亡くなってもいつも私たちの胸の中に」などである。この公園での散歩が毎日の日課だったのだろうか。この公園を初めて訪れた人も、ここに住む人々と気持ちを通わせることができる瞬間である。

九州地方整備局
道路調査官
西尾 崇
大分河川国道事務所長を経て2008年から現職。



道守 人物伝

県道を花で飾り、清掃八年続く「花ある街」づくり



薩摩川内市 松迫一義さん(78歳)

る。また、地区内を南北に横断する国道3号の清掃活動も年2回実施している。環境美化活動を行う目的を、「地域の仲間と共に地域づくりを行なう。地域づくりは人づくり」と話す。活動を通じて多くの人とのつながりを大事にしている。

このような活動が認められ、平成20年薩摩川内市環境フェア大会において「環境美化功労賞」を受賞した。

これからは、これらの活動を継続しつつ国土交通省のボランティアサポートプログラムへの参画を検討中であり、「人とのつながりの中で住みよい街を創っていききたい」と願っている。

鹿児島県薩摩川内市隈之城在住で中福良長寿会の会長を務める。薩摩川内市隈之城コミュニティ環境部の会員であり、地域活性を目指して長寿会会員51名の仲間とともに国・県道を花で飾りドライバー、歩行者に気持ちよく道路を利用して頂くことを切望している。

8年前から地区内県道の歩道800mに春・夏の年2回プラントナー80個に花を植え日々水かけ、花摘みの手入れを行っている。

「いつでも街に花があつたらいいね」30年以上続く花植え活動



佐賀市 永瀬澄子さん(88歳)

花植えのきっかけは、昭和五十一年の佐賀国体の時、会場や沿道への花植えを手伝ったのをきっかけに、「いつでも街に花があつたらいいね」と、グループを立ち上げ、いろんな方達と花に関する病気や害虫駆除などの勉強しながら、花植え活動を続けられています。

「当初は、種まきから始めて花苗を育て、花壇に植え替えていました。病気や害虫で、うまく花苗が育たないこともありました。」また、「夏場の水やりが一苦勞。病院やスーパー、クリーニング店等沿線の方々の協力がなければできません。行政の力も借りながら今後でもできる

限り続けていきたい。」とのことでした。毎月初めに会のお知らせを作って配り、花壇の様子や会員への心配りを行い、とても大正十年生まれの八十八歳には見えない元気な永瀬さん。まだまだ元気に頑張っている。



道守通信 編集後記

昨春の17号発刊を最後に1年あまり途絶えていました機関誌「道守通信」が、この度、アサヒビル(株)九州統括本部様のご支援を賜り、再発刊の運びとなりました。今回より編集委員による手づくりの機関誌となっております。会員等の皆様との情報交流ツールとして年数回の発刊に努力してまいります。 [編集事務局]